

2026年3月期 中間決算について

2025年 11月10日
JFE鋼板株式会社

2025年9月期の連結業績(2025年4月1日～2025年9月30日)

連結経営成績 (百万円未満切捨て)
(%表示は対前期増減率)

	売上高		経常利益	特別損益	当期純利益
	百万円	%	百万円	百万円	百万円
2025年9月中間期	32,951	△11.7	3,412	－	2,390
2024年9月中間期	37,338	0.6	3,462	－	2,255

注 連結子会社数 2025年9月中間期 5社、 2024年9月中間期 5社

(参考)単体経営成績 (百万円未満切捨て)
(%表示は対前期増減率)

	売上高		経常利益	特別損益	当期純利益
	百万円	%	百万円	百万円	百万円
2025年9月中間期	29,134	△10.8	3,491	－	2,463
2024年9月中間期	32,686	0.7	3,341	－	2,216

【当中間期の概況と損益】

当期の国内薄板建材の需要は、改正建築基準法の影響、人手不足、猛暑・大雨などの天候影響により住宅・非住宅ともに依然として力強さを欠く非常に厳しい販売環境となりました。このような状況において、当社グループは安定生産・品質管理・コスト管理のレベルアップに継続して取り組みました。販売面では、Jクラブやガルフレックスといった独自技術への高い評価を頂き、クロメートフリーカラー鋼板の累計販売量は本年6月に100万トンに達しました。「ジョイント立平®」「Jロック®500」「タイトロック®500」など社会ニーズに適合した商品販売も積極的に進めましたが、連結売上高は32,951百万円(前年同期比△11.7%)となりました。寮・社宅の売却をはじめ資産圧縮によるスリム化や業務効率化・コスト削減などを積み重ねたものの連結経常利益は3,412百万円となり、減収減益となりました。足元は依然として厳しい環境ですが、グループ経営の強化を目指して、関係会社と一体となった取り組みも積極的に進めています。

【当期の見通し】

当社を取り巻く事業環境は依然として不透明であり、住宅・非住宅ともに力強さを欠く状況が当面は継続する見通しです。
このような環境下、当社グループは次の方針のもと、着実な収益確保と中長期的な成長基盤の強化に取り組めます。
1) 中長期的な需要構造の動向を見据え、品質・省力・環境の3つのキーワードに応える商品開発・普及活動に注力し、SDGs達成に寄与する商品群の強化を進めます。
2) 製造ラインの安定操業、DXやAIを活用した効率化、鋼板の品質レベル向上など、製造技術に磨きを掛ける活動を継続させます。また、太陽光発電システム設置等による製造所のエネルギー効率化、工場建屋・クレーン更新におけるJFEスチールのグリーン鋼材「JGreeX®」の採用などカーボンニュートラルを目指した取り組みも実施します。
3) 建材分野では、自然災害に強い金属屋根とシステム鉄骨を組み合わせた「災強パッケージ®」を始め、高強度な折板屋根「Jロック®500」、「タイトロック®500」など、省施工性にも優れ、機能性と安全性を両立した商品を展開していきます。さらには、断熱性能も兼ね備えた次世代型省施工断熱外装材「ジョイント断熱®」の開発を完了し、2026年春より販売を開始する予定です。
4) お客様に対しては、足元の当社の原料・エネルギー・物流等の物価水準および当社商品の価値をご理解いただくべく丁寧な説明に務め、再生産可能な適正販売価格の維持・実現を目指します。

以上